



中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会

埼玉県の学力向上施策の概要

～埼玉県学調を中核としたPDCAの推進～

令和元年10月29日（火）
埼玉県教育委員会

1 埼玉県学力・学習状況調査について：（１）調査の概要

○今年度の埼玉県学力・学習状況調査（埼玉県学調）の概要

実施日	平成31年4月11日（木）
調査対象	県内の公立小・中学校（さいたま市を除く）に在籍する 小学校第4学年から中学校第3学年の全児童生徒 ・小学校 702校 148,379人 中学校 354校 139,495人 義務教育学校 1校 104人
調査概要	(1) 児童生徒に対する調査 ア 教科に関する調査 小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数 中学校第1学年 国語、数学 中学校第2学年及び第3学年 国語、数学、英語 ・出題数は、各学年26～38題（出題形式は選択式・短答式・記述式の混合（紙媒体）） イ 質問紙調査 学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項 （質問数は、学年により86～104項目） (2) 学校及び市町村教育委員会に対する調査 学校における教育活動並びに学校及び市町村における教育条件の整備等に関する事項
特徴	学力の伸び（経年変化）などを継続して把握することのできる調査 ・小学校第4学年から中学校第3学年までの同一児童生徒を継続して把握 ・PISA（国際学力到達度調査）と同様の調査手法（項目反応理論）を採用

1 埼玉県学力・学習状況調査について：（2）埼玉県学調の特徴

①一人一人の学力の伸び（変化）を継続して把握できる調査

パネル
データ

→ 同一児童生徒の変化を継続的に把握



IRT
項目反応理論

→ 出題する全ての問題に同一尺度で難易度を設定（PISAやTOEFLと同様の調査理論に基づく）

■ 異なる調査間での学力の比較が可能

（⇔多くのテストでは、点数が上昇しても「テストが易しかった」のが「本人が努力した」のかが分からない）

➡ 学力の伸び(変化)の継続把握を実現

②非認知能力・学習方略にも注目した調査

非認知能力
学習方略

○非認知能力：学力等の認知能力以外の様々な力（自制心、自己効力感、勤勉性、やり抜く力）

○学習方略：子供が学びに向かうときの態度や学習の仕方（計画的な学習、柔軟な学習 等）

<参考>「学力のレベル」と「学力の伸び」について

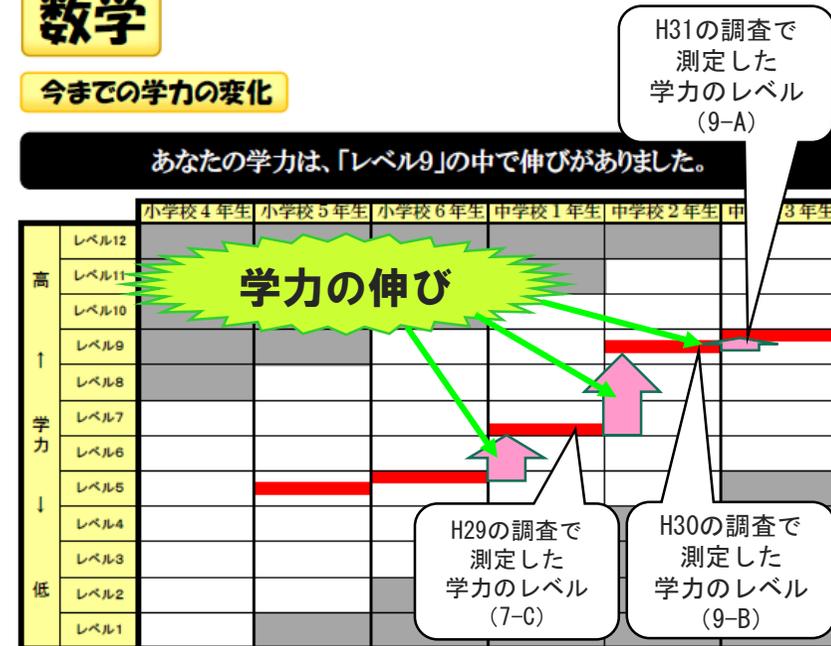
※ 本調査では、学力を「学力のレベル」として提示している。
→ 小学校4年生から中学校3年生までのすべての問題に難易度を設定することで、学力のレベルを測定している。

- 本調査における「学力のレベル」の考え方
 - ・ 「どのくらい難しい問題を解く力があるか。」を学力のレベルで表している。レベルが上がるほど、難易度の高い問題を解く力がある。
- 本調査における「学力の伸び」の考え方
 - ・ 年度間の「学力のレベルの差」を学力の伸びと捉える。

- 全部で12のレベルがあります。
(各学年では測定可能なレベルは7レベル)
- 1つのレベルをさらに3層(A～C)に分割。

数学

今までの学力の変化



<参考> 非認知能力に関する質問項目

<自制心>

- 授業で必要なものを忘れた
- 他の子たちが話をしているときに，その子たちのじゃまをした
- 何か乱暴なことを言った
- つくえ・ロッカー・部屋が散らかっていたので，必要なものを見つけることができなかった
- 家や学校で頭にきて人や物にあたった
- 先生が，自分に対して言っていたことを思い出すことができなかった
- きちんと話を聞かないといけないときにぼんやりしていた
- イライラしているときに，先生や家の人（兄弟姉妹は入りません）に口答えをした

出典：Tsukayama, E., Duckworth, A. L., & Kim, B. (2013). Domain-specific impulsivity in school-age children. *Developmental Science*, 16, 879–893.

<自己効力感>

- 授業ではよい評価をもらえるだろうと信じている
- 教科書の中で一番むずかしい問題も理解できると思う
- 授業で教えてもらった基本的なことは理解できたと思う
- 先生が出した一番むずかしい問題も理解できると思う
- 学校の宿題や試験でよい成績をとることができると思う
- 学校でよい成績をとることができるだろうと思う
- 授業で教えてもらったことは使いこなせると思う
- 授業のむずかしさ，先生のこと，自分の実力のことなどを考えれば，
自分はこの授業でよくやっているほうだと思う

出典：P. Pintrich, et al. (1991) A Manual for the Use of the Motivated Strategies for Learning Questionnaire (MSLQ).

<参考> 非認知能力に関する質問項目

<勤勉性>

- うっかり間違えたりミスしたりしないように、やるべきことをやります
- ものごとは楽しみながら頑張ってやります
- 自分がやるべきことにはきちんと関わります
- 授業中は自分がやっていることに集中します
- 宿題が終わったとき、ちゃんとできたかどうか何度も確認をします
- ルールや順番は守ります
- 誰かと約束をしたら、それを守ります
- 自分の部屋や机のまわりはちらかっています
- 何かをはじめたら、絶対終わらせなければいけません
- 学校で使うものはきちんと整理しておくほうです
- 宿題を終わらせてから、遊びます
- 気が散ってしまうことはあまりありません
- やらないといけないことはきちんとやります

出典：

Barbaranelli, C., Caprara, G. V., Rabasca, A., & Pastorelli, C. (2003). A questionnaire for measuring the Big Five in late childhood. *Personality and Individual Differences*, 34(4), 645-664.

<やり抜く力>

- 大きなかたいをやり遂げるために、失敗をのりこえてきました
- 新しい考えや計画を思いつくと、前のことから気がそれてしまうことがあります
- 興味をもっていることや関心のあることは、毎年変わります
- 失敗しても、やる気がなくなってしまうことはありません
- 少しの間、ある考えや計画のことで頭がいっぱいになっても、しばらくすると飽きてしまいます
- なにごとにもよく頑張るほうです
- いったん目標を決めてから、そのあとべつの目標に変えることがよくあります
- 終わるまでに何か月もかかるようなことに集中しつづけることができません
- はじめたことはなんでも最後まで終わらせます
- 何年もかかるような目標をやり遂げてきました
- 数か月ごとに、新しいことに興味をもちます
- 真面目にコツコツとやるタイプです

出典：

Duckworth, A. L., Peterson, C., Matthews, M. D., & Kelly, D. R. (2007). Grit: Perseverance and passion for long-term goals. *Journal of Personality and Social Psychology*, 92(6), 1087-1101.

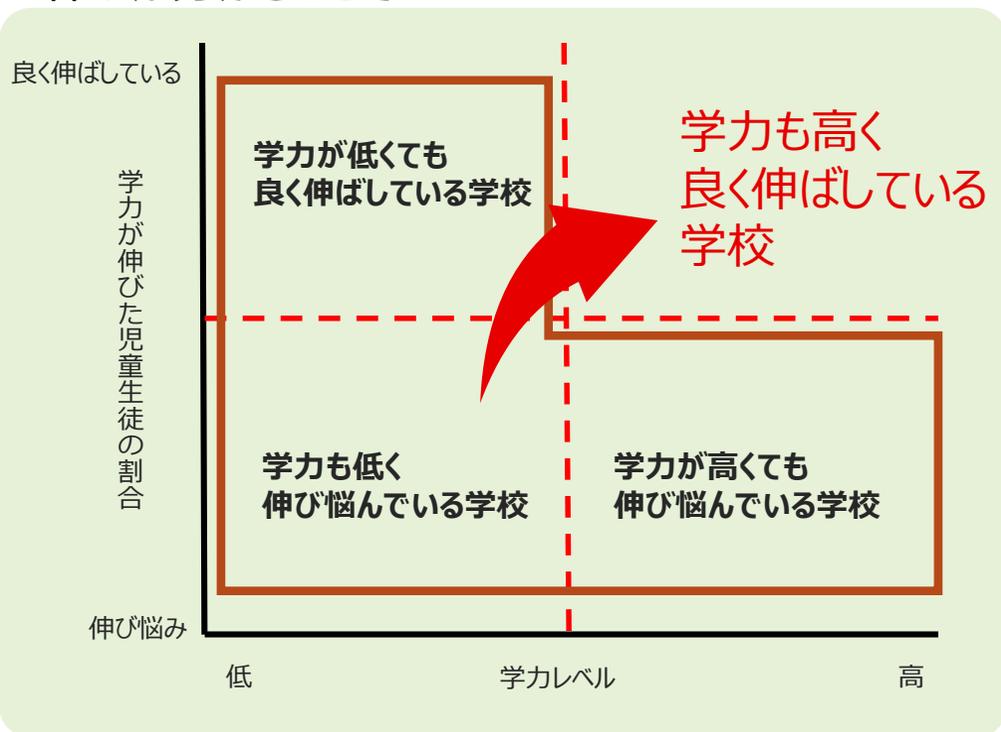
<参考> 学習方略に関する質問項目

○ 児童生徒質問紙では、学習方略（学習方法や態度）についても把握。以下の全ての質問に回答。

柔軟的方略	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強のやり方が、自分に合っているかどうかを考えながら勉強する ・勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる ・勉強しているときに、やった内容を覚えているかどうかを確かめる ・勉強する前に、これから何を勉強しなければならないかについて考える
プランニング方略	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強するときは、最初に計画を立ててからはじめる ・勉強をしているときに、やっていることが正しくできているかどうかを確かめる ・勉強するときは、自分できめた計画に沿って行う ・勉強しているとき、たまに止まって、一度やったところを見直す
作業方略	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強するときは、参考書や事典などがすぐ使えるように準備しておく ・勉強する前に、勉強に必要な本などを用意してから勉強するようにしている ・勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる ・勉強で大切なところは、くり返して書くなどして覚える
人的リソース方略	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強でわからないところがあったら、友達にその答えをきく ・勉強のできる友達と、同じやり方で勉強する ・勉強でわからないところがあったら、友達に勉強のやり方をきく ・勉強するときは、最後に友達と答えあわせをするようにする
認知的方略	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強するときは、内容を頭に思い浮かべながら考える ・勉強をするときは、内容を自分の知っている言葉で理解するようにする ・勉強していて分からないところがあったら、先生にきく ・新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する
努力調整方略	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の勉強をしているとき、とても面倒でつまらないと思うことがよくあるので、やろうとしていたことを終える前にやめてしまう ・今やっていることが気に入らなかったとしても、学校の勉強でよい成績をとるために一生懸命頑張る ・授業の内容が難しいときは、やらずに諦めるか簡単なところだけ勉強する ・問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやり続けられるように努力する

1 埼玉県学力・学習状況調査について：（2）埼玉県学調の特徴

伸びが分かることで・・・



H30 クラス	「学力が伸びた児童」の割合	
	国語	算数
5 - 1	73.4%	96.5%
5 - 2	91.8%	75.1%

1組：算数、2組：国語で効果的な指導
→お互いの得意分野でのよい指導方法を共有



学力を伸ばしている学校や学級が分かり、良い取組の共有が可能
データに基づく学校・教員の授業改善P D C Aサイクルの確立

2 埼玉県の学力向上施策について：（1）人員配置・助言等の支援

施策名	事業コンセプト	支援類型	実施規模	実践例
未来を生き抜く人財育成 学力保障スクラム事業	家庭の経済状況などから学力に課題を抱える 小学校3～5年生の児童に対する教育的支 援の方法をモデル校10校で研究。	・教員配置 ・予算 ・県による訪 問・助言	小10校	授業内外での支 援、家庭・地域と の連携
「チーム埼玉」学力向上 パワーアップ事業	規模が小さいなどの理由で自力での学力向上 に悩みを抱える市町村を支援。	・教員配置 ・県による訪 問・助言	9市町	学習支援カルテ の活用及び授業 研究会の実施
重点支援	前年度の県学力・学習状況調査で「学力が伸 びた児童生徒の割合」が県平均を下回る状況 などにある小中学校を重点的に支援。	・教員配置 ・県による訪 問・助言	5市町 16校	埼玉県学調及び全国 学調に基づく学力向上 PDCAサイクルの確立 (調査結果の分析、 良い取組の共有等)
学力向上プロジェクト教員	「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改 善や県学調に基づくPDCAを進める上で核となる 教員を選定し、当該教員が他の教員を支援。	・教員配置 ・県による訪 問・助言	小15校 中5校	示範授業の実施、 他教員の授業の 指導

▶ 平成30年度は、県教委から市町村・学校に計350回訪問。
全国学調・埼玉県学調を活用した学力向上等について助言し、取り組むべき方策をともに検討⁹。

2 埼玉県学力向上施策について：（1）人員配置・助言等の支援

○研究委嘱校や重点支援校で効果のあった取組例

○ 授業改善とよい指導の共有

＜例＞ 授業スタイル・板書・ノート指導の統一
指導法共有のための教員向け通信の発行
各種調査結果や指導方法をまとめた県作成の学習支援カルテ「コバトンのびのびシート」を活用した指導の共有

○ 授業外の補習の実施と独自教材の作成・活用

＜例＞ 独自の復習教材「かがやきプリント」を作成・週2回の朝自習等で活用
中学校や近隣の高等学校と連携し、夏休み中の補充学習「サマースクール」の実施
低学力層向け独自教材「夕焼け計算道場」の作成・実施

○ 家庭と連携した学習支援

＜例＞ 調査結果やその他学力向上に関する情報を集めた保護者向け通信の発行
県が作成している復習シートの活用と保護者による採点

2 埼玉県の学力向上施策について：（2）データ分析による県の施策の改善

<埼玉県学力・学習状況調査のデータ活用事業（H28～）>

埼玉県では、埼玉県学調の調査結果のデータを、統計学や教科教育の専門的知見を有する研究機関に提供して分析を委託し、施策の改善に活用（委託先：慶應義塾大学SFC研究所）。

また、同事業では、「主体的・対話的で深い学び」の研修モデルの検討や、どのような指導改善を行えば学力や非認知能力・学習方略を向上させる授業ができるのかにつき検討するためのアクション・リサーチを実施。

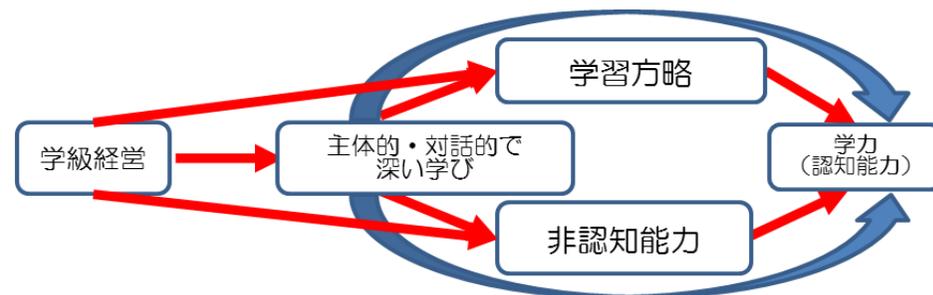
（データ分析結果の例）

➤ 学力向上に向けた取組

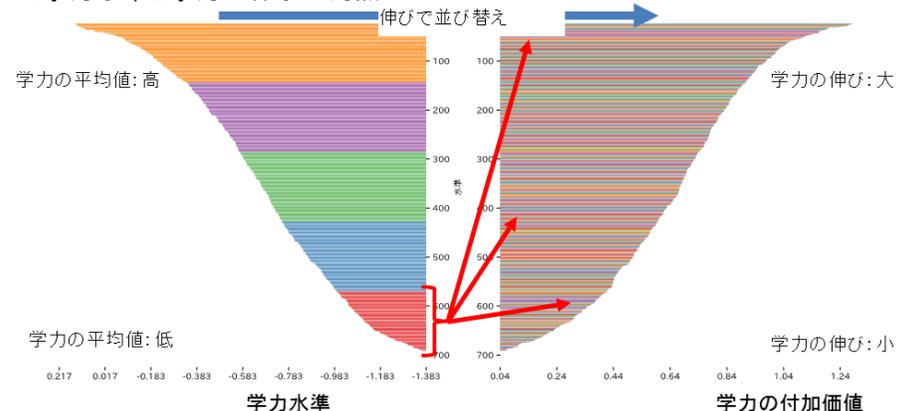
教員が「主体的・対話的で深い学び」や「学級経営」に取り組むことで、子供の「非認知能力」「学習方略」を改善させ、ひいては学力の向上につながっている。

➤ 学力が高い学校≠学力を伸ばしている学校

学力が高い学校であっても、学力を伸ばしているとは限らない。逆に、学力が低くても、学力を大きく伸ばしている場合もある。



<学力水準と学力の伸びの対照>



（アクション・リサーチの概要）

教科教育の専門家の協力を得て、特定の教員に研修などによる働きかけを行い、それにより授業改善に向けた教員の意識や子供達の学習方略等の変化について見取りを行う取組。

2 埼玉県学力向上施策について：（3）優れた取組の抽出・共有

○埼玉県学調からは、児童生徒の学力を優れて伸ばした教員を抽出可能

→「埼玉県学力・学習状況調査活用リーフレット」の作成

…県学調の結果を基に抽出した学力を伸ばしている教員から県がヒアリングを行い、授業や学級経営、学力調査の活用等でどのような取組を行っているかを取りまとめ、各学校に配布。

授業では

学習内容を明確にしました！

- 「今日は○○ができれば満点」のように、授業のゴールを示すようにしました。
- 本時の内容が、他の教科書ではどのように扱われているのかを見比べて教材研究をしました。

発言の取り上げ方を工夫しました！

- 挙手する児童の発言だけで授業を進めないようにしました。（児童の発言を聞く、繋ぐ、返す）
- 「なぜ？」という問い返しを何度も行いました。

学力層に応じた支援を心掛けました！

- 早く問題を解き終えた児童のために、プラスアルファのプリントを準備しました。
- 課題に取り組めない児童のために、穴埋め式のワークシートやヒントカードを用意しました。

まとめ・振り返りを必ず行いました！

- 課題に正対したまとめを、児童と一緒に考えるようにしました。
- どの授業でも必ず、自分が学んだことを振り返る（見直す）時間を設定しました。

導入を工夫しました！

- 日常生活と関連付けるなど、解決の必要性を感じさせる課題を設定しました。
- 課題は児童とともに設定しました。
- 導入場面では、掲示物等を活用し、本時の学習内容に関係のある既習事項を復習しました。

学び合う場面を設定しました！

- 児童同士が自由に関わる時間を設定しました。
- 自分の考えだけでなく、ペアを組んだ相手の考えを説明する場面を設定しました。
- 教員が範を示しながら、児童同士が互いの発言に問い返しができるようにしました。

板書やノートを充実させました！

- 課題は青、まとめは赤で囲むなど、板書とノートの色使いを統一しました。
- 1時間の思考の流れが分かるような板書づくりを意識しました。
- 板書を写真に撮り、教員同士で共有しました。



授業では

学習内容を明確にしました！

- 教材研究で、小学校の教科書を見直し、既習事項や系統性を確認するようにしました。
- 目標は必ず板書し、見通しが持てるようにしました。（目標の提示は、授業の冒頭とは限らない。）

発問を工夫し、発言を引き出しました！

- 「なぜ？」「どうして？」といった問い返しの発問を意識的に行いました。
- 既習事項との違いを問うことで、生徒自身が課題を発見できるようにしました。
- 誤答を意図的に取り上げることで、生徒が解答を振り返る場面を設けました。

学力層に応じた支援を心掛けました！

- 問題解決場面では、初めから多くのヒントを与えず、段階的にヒントを出すようにしました。
- 上位層向け、それ以外の生徒向けの2種類の練習プリント（練習問題）を用意しました。
- 教師に丸をもらった生徒がミニティーチャーとなり、解き終わっていない生徒への手助けを行うようにしました。

板書やノートを充実させました！

- 1時間の板書が全て残るように構造化しました。
- ノートに、自分の感じたことや、他者が発言したこと等のメモをとれる欄を設けました。
- 図形や文章問題等では、プリントを使い、ノートに書く時間を短縮するようにしました。

主体的に学べるようにしました！

- 日常生活や社会と関連する問題、複数の答えが考えられる問題等を出題し、生徒の興味・関心を高めるようにしました。
- 授業の冒頭で、本時に関係する既習事項の確認テスト（確認問題）を行いました。
- キーワードを示すなどの工夫を行い、生徒の言葉で課題を設定するようにしました。

学び合う場面を設定しました！

- ペアで相談できる時間をこまめにとりました。
- グループで最初に解答できた生徒が、他のメンバーの解答の確認を行いました。また、考えをメンバー全員が説明できるようにしました。

まとめ・振り返りを必ず行いました！

- キーワードを確認するなどの工夫を行い、生徒自身の言葉でまとめが書けるようにしました。
- 自己評価カードに、「今日学んだこと」の欄を設け、毎時間振り返りを行うようにしました。
- 授業の最後に次時の予告を行い、予習的な課題を宿題にするようにしました。



2 埼玉県の学力向上施策について：（3）優れた取組の抽出・共有

良い授業を見つけ！広めて！学力UP事業

<現状>

- 子供の学力を「伸ばしている学級」と「伸ばしていない学級」が存在
- 学校・市町村内での共有には限界（例：小規模学校は教科担任が1名など）
- 授業のポイントやニュアンスは資料だけでは伝わらない

「伸ばしている学級」の取組（良い授業）を見つけることが必要

県内全域に良い授業を広めることが必要

動画などで良い授業を見てノウハウを学ぶことが必要

県学力・学習状況調査の結果から抽出した良い授業を撮影し、編集・加工した研修資料を県内全域に広めることで授業改善を進める。

<事業内容>

良い授業を見つける！

H29 クラス	伸びた児童の割合	
	国語	算数
5-1	73.4%	96.5%
5-2	74.8%	75.1%

良い授業を広める！



良い授業を学ぶ！



① 県学調の結果から良い授業を抽出

- 感覚ではなく、データに基づいて、子供を伸ばしている授業を抽出

② 良い授業を撮影し、専門家などの解説を付加した動画を作成

- 時間、場所に関わらず良い授業が見られる使える
- 動画を活用した研修の構築

③ 年次研修、校内研修、自主研究などで活用

- 実際の授業を見ているような臨場感や解説を通して、授業のポイントやニュアンスを実感

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度～
国語/算数数学/英語	授業撮影・編集(解説の付加など)研修の構築			年次研修、校内研修、自主研究などで活用

データに基づく効果的な授業を学び、教員の授業改善を通して子供達の学力UP！ 13

2 埼玉県の学力向上施策について：（４）各市町村教委・学校による調査結果の活用促進

<各市町村教委・学校に活用を促している資料の例>

○各種帳票・分析支援プログラム

各学校が調査結果を多角的な角度で分析するための帳票や「分析支援プログラム」の作成・配布
 → 市町村教委・学校ごとに、学力等の状況を把握できる。

○コバトンのびのびシート

埼玉県学調や市町村等が独自に実施した調査の結果や教員の指導等を一元化して引き継ぐことのできるカルテの作成・配布
 → 一人一人の状況を踏まえた授業改善、教員間の情報共有が可能になり、子供たちへの継続的な指導ができる。

○コバトン問題集・復習シート

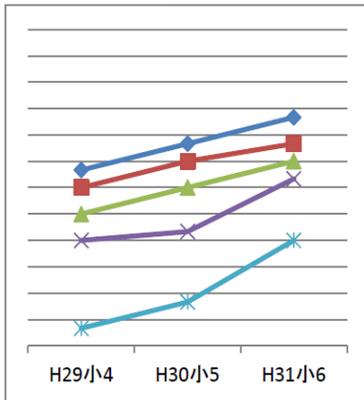
埼玉県学調の類似問題や全国学調の問題をまとめ、問題集として作成・配布。
 → 子供達が自分の学力を踏まえ、より難しい問題に挑戦することや、難易度の低い問題に立ち返ることができる。

(配布している帳票の例)

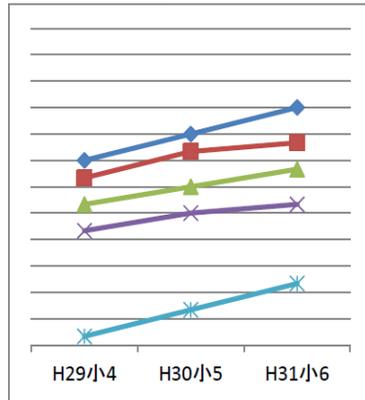
(コバトンのびのびシート)

学校名	学力を伸ばした児童生徒の割合 (%)	学力が伸びなかった児童生徒の割合 (%)	学力の伸び率 (H31学力レベルとH30学力レベルの差の平均)
埼玉県	66.8	33.2	1.8
〇〇市立〇〇小学校	67.8	32.2	2.2

貴実施主体



埼玉県



コバトンのびのびシート

教科 科目	年度	正答率		レベル		伸び		話す聞く書く		読む	
		正答率	レベル	伸び	伸び	数と計算	量と測定	図形	数量関係		
国語	H30	63.3	6-B	3 (1)	25.0	88.9	58.8				
	H30	40.3	5-C	0 (2)	36.4	42.9	57.1	28.6			

項目: AL
内容: 「主体的・対話的で深い学び」ができていたか
H30 変化: 3.0 0.0

学習方法(学習スタイル)

柔軟的方針	学習の進め方を自分の状況に合わせて柔軟に変更していく活動	3.1	0.3
プランニング方針	計画的に学習に取り組む活動	2.0	-0.2
作業方針	ノートを書いたり、声に出したりといった作業を中心に学習を進める活動	2.8	0.3
人約リソース方針	すぐにやり方や答えを聞かずに学習を進める活動	-1.6	0.3
認知の方針	より自分の理解度を深めるような学習活動	2.6	0.1
努力調整方針	「苦手」等の感情をコントロールして学習への意欲を高める活動	3.1	0.3
自律心	自分の意思で感情や欲求をコントロールすることができる力	2.7	0.2

学力・A・L・学習方法・認知能力のグラフ

学習方法と非認知能力の変化

学力レベルの変化

任意の質問項目

内容(特筆すべき質問項目を記入)	H30
1. 上のような夢や目標を持っていますか	どちらかといえば 持っていない
2. 学校の授業の予習や復習をしていますか	どちらかといえば していない
3. 家で学習する時間や場所を確保していますか	どちらかといえば していない
4. 家で学習する場所や時間を確保していますか	どちらかといえば していない
5. 家で学習する場所や時間を確保していますか	どちらかといえば していない

【年・組・氏名】6年1組15番

実力テスト(国語)	実力テスト(算数)				
	話す	聞く	書く	読む	漢字
78	87	40	87	89	80
88	68	56	80	88	97

その他のテスト等

算数	国語	英語	理科	社会	音楽	体育	美術	家庭科	外国語	総合
67	55	50	45	70	40					

伸ばしたいところ

国語: 読む 話す 書く 聞く 漢字 言葉のまじり

算数: 分数の計算 小数や百分の割合計算の定着と応用 図形 量と測定 図形 数量関係 文章問題も解くことができる

学習に取り組む態度: 主体的に学習する 計画を立てて学習する 集中して学習する 分からないところを質問する 分からないところを質問する 分からないところを質問する

国語: 書きの練習を頑張りたい。読書の習慣を身につけたい。漢字の練習を頑張りたい。算数の文章問題を解きたい。

算数: 算数の文章問題を解きたい。算数の文章問題を解きたい。算数の文章問題を解きたい。

国語: 国語の文章問題を解きたい。国語の文章問題を解きたい。国語の文章問題を解きたい。

算数: 算数の文章問題を解きたい。算数の文章問題を解きたい。算数の文章問題を解きたい。

3 取組の成果

(1) 「学力の伸び」が見られた児童生徒の割合の増加

これまでに4回計測された「児童生徒の学力の伸び」を比較すると、一定程度以上の「学力の伸び」が見られた児童生徒の割合は着実に増加している。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」や「良好な学級経営」の進展

- ・児童生徒質問紙：全国と比べて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取組や、良好な学級経営に向けた取組が進んでいることがうかがわれる。

※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答を合わせた値

(単位：%)

質問事項	小学校		中学校	
	埼玉県	全国	埼玉県	全国
前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか	67.5	62.5	64.8	55.8
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会等で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか	81.2	74.0	81.2	71.6

(3) 学力調査を活用したPDCAの推進

- ・学校質問紙：全国と県の学力調査結果を併せて分析し、教育指導の改善や指導計画等への反映を行っているという回答した学校の割合が全国に比べ高い。

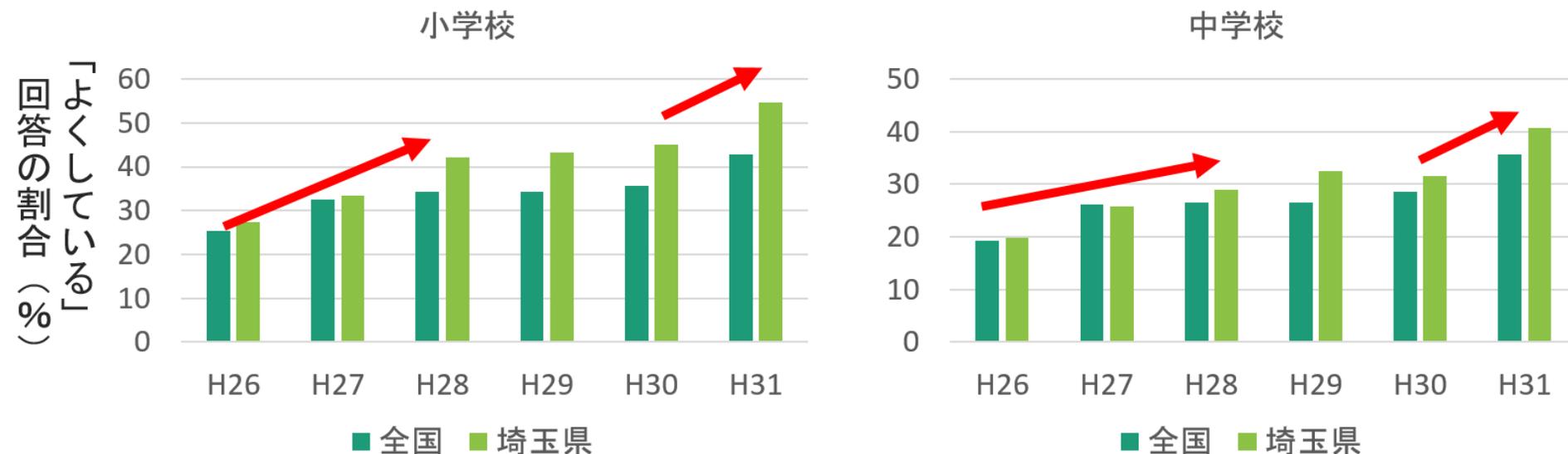
※「よく行っている」と回答した値

(単位：%)

質問事項	小学校		中学校	
	埼玉県	全国	埼玉県	全国
全国学力・学習状況調査の結果を自治体独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている	54.7	42.9	40.7	35.6

3 取組の成果

全国と県の調査を併せて分析し、PDCAサイクルを機能させて指導改善に取り組んでいる学校の割合につき、近年、埼玉県は全国を上回るペースで活用が進んでいる。

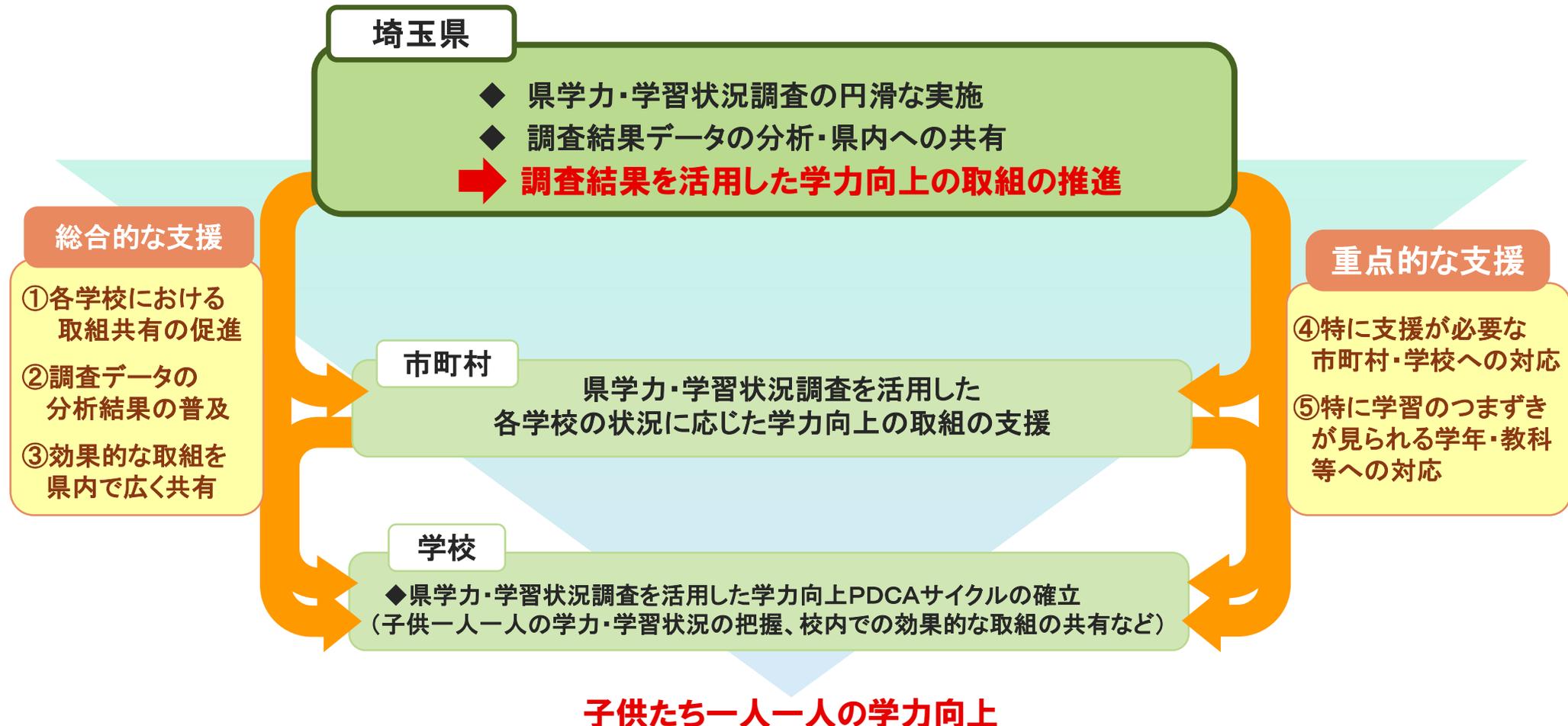


※全国学調の学校質問紙「全国学力・学習状況調査の結果を自治体独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている」の回答状況の推移

4 今後の展開：（1）重層的な支援

＜基本方針：市町村・学校との一層の連携・協働による重層的な支援＞

- 県学力・学習状況調査のデータを十分に活用し、学力を伸ばしている良い取組を発掘・共有する文化やネットワークを各市町村・各学校に構築する。【**総合的な支援**】
- 伸び悩みを抱える市町村・学校を徹底的に支援することで、子供たちの学力向上を図る。【**重点的な支援**】



AIを活用した学びの実践研究事業

～県の学力調査結果などのデータとAIを活用し、子供一人一人に応じた指導の実現を目指す～

県に蓄積されたビッグデータ

同1	同2	同0	学力	学力変化	非認知
○	○	…	高	伸び	中
○	x	…	中	伸び	低
x	x	…	低	停滞	低



県学力・学習状況調査データ
(毎年度約30万人の小中学生が受検)

小中高の学校が保有するデータ



生活習慣アンケート等

Q1 ○	Q1 ⊗
Q2 ⊗	Q2 ⊗
Q3 ⊗	Q3 ○

体力テスト
部活動の状況



学校保有データはデータベース化や蓄積手法の研究が必要

① 県学力調査と学校保有データのAI分析



子供の過去・現在の学習のつまずきの把握や、多くのデータパターンから将来の学力の状況などを予測

② AIによる分析結果(成果物)の活用を、小・中・高のモデル校で実践・検証

<成果物イメージと活用例>

<個別アドバイスシート>



学力向上や生活習慣などの改善事項を提示

面談や授業改善などで活用

<個別学習教材>



個々の理解度等に応じた練習問題の提供や復習箇所を提示

子供の家庭学習などで活用

<進路支援シート>

目指す進路を実現するための長期的な視点での達成目標など提示

保護者との進路面談などで活用

4 今後の展開：（3）他の自治体への展開

実施自治体の拡大

平成30年度から

広島県福山市、福島県郡山市、福島県西会津町

平成31年度から

埼玉県：累計約150万人分（毎年約30万人×5年）のデータ
福島県：毎年約8万人分のデータ

福島県全域、宮城県白石市、高知県梶原町等で本調査を共同実施

埼玉県学力・学習状況調査



コバトン

×



うつくしま、ふくしま。



×



福島県西会津町
FUKUSHIMA NISHIAIZU TOWN

平成30年12月25日に連携協力協定を締結

平成30年6月28日に教育データ分析で協定

- 自治体間の効果的な指導の共有など、情報共有・連携の促進
- 県外へ転出・転入する児童・生徒にも継続性のある指導